







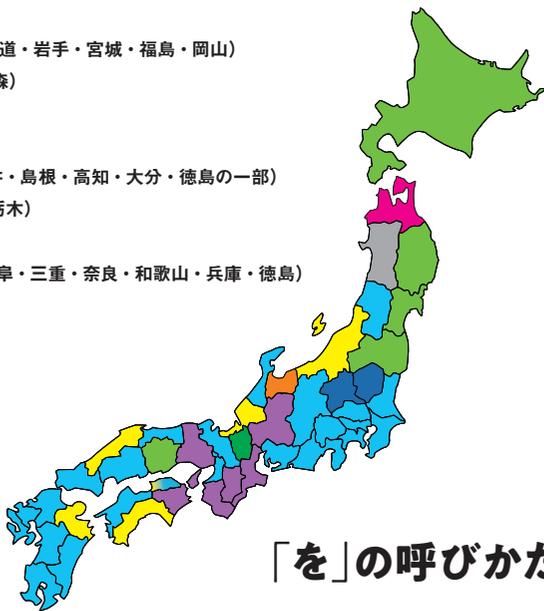




# 学校方言 —— 「を」の呼びかた

オと発音する二つのかな「お」と「を」を区別する時に、「を」を「ウォ」と発音して区別することもありますが、学校現場ではこの「を」を特定の呼びかたで区別しているところも多く、呼びかたは地域によってさまざまです。

- くつつきのオ (北海道・岩手・宮城・福島・岡山)
- 腰まがりのオ (青森)
- かぎのオ (秋田)
- わをんのオ
- 下のオ (新潟・福井・島根・高知・大分・徳島の一部)
- 重たいオ (群馬・栃木)
- 小さいオ (富山)
- 難しい方のオ (岐阜・三重・奈良・和歌山・兵庫・徳島)
- わ行のオ (滋賀)



## 「を」の呼びかたは？

関東・中部を中心に四国、九州まで広い範囲で使われているのが「わをんのオ」です。この三つのかなをまとめて並べている五十音図に影響された呼びかたです。

文字の形に注目した呼びかたとしては、青森の「腰曲がりのオ」や秋田の「かぎのオ」があります。近畿地方で広く使われている「難しい方のオ」も、「を」が小学生にとって書きにくい形ということであればこのタイプに含まれます。

「を」が「○○を」のように助詞として使われることに注目した呼びかたが「下のオ」で、中国・四国を中心に各地に見られます。「くつつきのオ」も同じ発想で、北海道から東北地方に広がっています。「○○を」と語の下に位置するため、群馬では「重たいオ」と呼ばれます。

富山に限定される「小さいオ」は、「大きい」をかなで「おおきい」と書くため、その「大きい」の「お」ではない方という発想からだと思われます。

# あいさつ (手紙の)・季語 (季語は代表的なものだけに、「春の月・夏草・秋風・寒雀」のことば)・季語 (季語は代表的なものだけに、「春の月・夏草・秋風・寒雀」のように、季節の名を含んでいるものはとり上げていない。)

十月 スノートの日 (第2月曜) 紅葉狩り	九月 お月見 敬老の日 敬老の日 第3月曜 秋分の日 秋分の日 (23日ごろ)	八月 山の日 山の日 (1日) 終戦記念日 (15日)	暦
霜降 (23日ごろ)	白露 (7日ごろ) 秋分 (23日ごろ)	処暑 (23日ごろ)	節気
菊の節句 (9日)	薄 (7日)	萩 (15日)	旧暦
長月(旧九月)	十五夜 (中秋の月)	七夕(旧八月)	文月(旧七月)



秋刀魚、鮭、水澄む 日本人は、季節ごとの水を感じ、春の「水温む」に対して、秋には「水澄む」ととらえた。夏の「出水(洪水)」、冬の「水枯る」もある。

**時候のあいさつ (手紙のことば)**

残暑きびしきおりから、  
暦の上では秋になりましたが、  
このころは少しずつ涼しさが感じられますが、  
このころは少しずつ涼しさが感じられますが、  
暑さもつうらぎ、しのぎよい季節になりました。

◆中秋・秋冷  
天高く馬肥ゆる秋になりました。  
朝夕はめづきり涼しくなり、  
二十日も無事にすぎ、  
虫の音も夜ごとにさびしさを増し、  
名月はあいにく曇りで見られませんが、  
灯火親しむの候、  
いちよの葉は鮮やかに色つき、  
あちこちで菊の展示会も催され、  
秋のとり入れもすつかり終わり、

**秋の花**  
尾枯萩、秋萩、秋桜、朝顔、花梗、桜、顔

虫の音  
鈴虫、きりぎりす、蟋蟀